

年間指導計画案に 地図帳学習をもちこもう

帝国書院 広報室

新学習指導要領での 地図帳指導とは？

新学習指導要領（および解説書）では、社会科の基礎能力として、これまで以上に地図帳の指導が重要となりました。地図帳を自由自在に活用できるよう、とくに使いはじめにおいて、地図の見方やさくいんの引き方、統計資料の活用などについて指導することが大切とされています。しかしそこでは「地図帳の使い方」の単元が社会科で設けられていないため、具体的な指導計画の中に位置づけていく必要があります。

地図帳指導の 最大のチャンスは？

最大のチャンスは、初めて触れる地図帳に興味津津な4年生の4月です。一方、他の教科書と比べて情報量が多い地図帳は、苦手意識がつきやすい教材でもあります。そこで、地図帳にはどのような使い方の“コツ”があるのかという指導を、4年生の最初、わずか1～2時間程度位置づけていただくだけで、児童が自ら地図帳を開くようになり、地図活用が活発となるのです。

地図帳を楽しみながら理解してもらうのに有効なのは「さくいんを使った地名探し」の学習です。地名探しはゲーム感覚で行え、児童も夢中で取り組みます。4年生社会科の最初の時間は、さくいんでの地名探しをすることで、地図帳に親しみながらの基礎指導の機会としていただきたいと考えます。

住んでいる町や観光施設など、自分の既得知識がおよぶ範囲については、場所を探しあてる児童は多いものです。しかし、全く知らない地名を探すすべを児童は持っていません。

たとえば実際にある「^{かに}可見市」という市を探す活動をしてみます。「みんなで『かに市』を見つけよう」と投げかけると、児童は喜んで探しはじめますが、ほとんどの児童は「どこだろう、見つからないな」と言いながら地図帳のページをめくります。この「見つけられない経験」が、その後のさくいんの理解につながります。「青い線に囲まれた四角の中を探すと探しやすいよ」「地図帳の巻末には国語辞典のように地名が並んでいるよ」など、“コツ”を教えることで、すべての児童がさくいんを使いこなせるようになっていきます。

弊社では、このような4年生での、地図帳の基礎指導授業案を作成しております。弊社HP「指導の手引きシリーズ」の「地図帳活用はじめの一步（PDFファイル）」をご活用ください（<http://www.teikokushoin.co.jp/howto/index28.html>）。このほかにも、都道府県名学習や5～6年生での活用など、さまざまな指導案を掲載しています。

年間指導計画へ 地図帳指導の時間を！

地図帳の巻頭には地図化の概念から、地図記号、縮尺など、地図帳を使いこなすためのルールや約束ごとがていねいに掲載されています。この部分もぜひ活用して、4年生のうちに地図のしくみ、地図の“コツ”を定着させましょう。

地図指導は、社会科の基礎力向上のためにも大切です。毎年必ず行えるよう、学校・地域において、定番として年間指導計画にしっかり位置づけていただきたいと考えます。